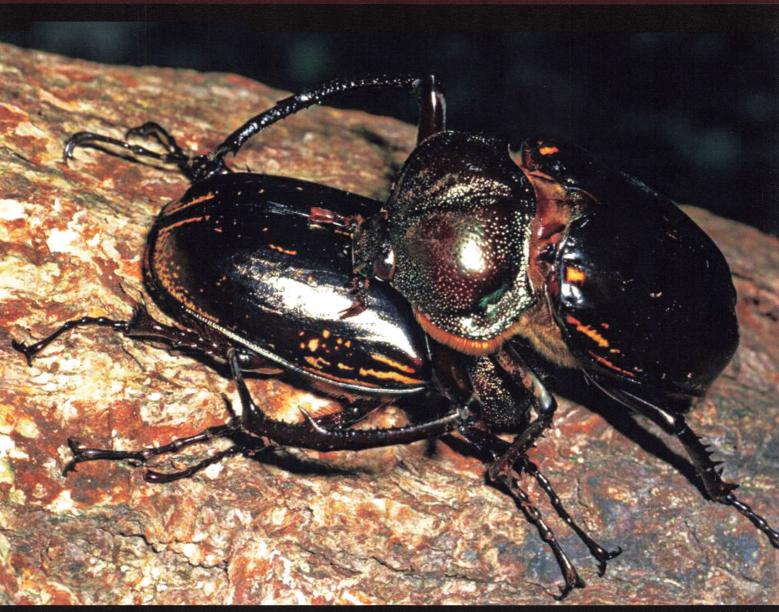
イナ イナ ニース

ITAMISHI KONCHUKAN NEWS 第8号2007/2

特集 昆虫館スタッフが見た沖縄



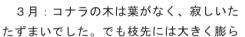
撮影:佐々木健志(琉球大学資料館)



ほっとパーク昆陽池

コナラの定点観察~どんぐりのできるまで~

身近な自然だからこそできる観察の方法 に定点観察(決まった対象を時間をおって 観察すること)があります。私は昆虫館出 口脇にあるどんぐりの木「コナラ」の定点 観察をしました。出勤時に側を通るこの木 を月に1、2度じっくり観察し、その写真 を撮るだけなのですが、続けると多くの発 見がありました。





葉っぱのないコナラ (3月)

んだ冬芽がありました。4月:冬芽はほころび、明るい黄色の雄 花が咲きました。小さく目立たない雄花は、しっぽ状に集まって 咲きます。雄花の花粉を求めてミツバチとハナアブがやって来ま





した。雌花は、雄花よりもっ と目立たず、頼りない感じで す。5月:雄花はすっかり落 ち、代わりに黄緑色の葉が広 がっていました。柔らかい葉 にはカメムシやガの幼虫が潜 んでいます。雌花は4月と余 ^{コナラの冬芽(3月)}り変わらない様子でした。6 月:葉は濃い緑へと変わり、 だいぶ硬くなりました。雌花 は受粉(雄花の花粉が運ばれ

コナラの雄花(左)と雌花(右)(4月)た)したらしく、つけ根が膨 らんでいました。7月:昆虫館は夏の特別展の準備で大忙し。コ ナラの雌花はかわいらしいどんぐりへと変わり始めていました。 秋に落ちるどんぐりはゆっくりと成長するようです。8月:夏真 っ盛り、木の幹ではセミが鳴き、葉の裏ではハラビロカマキリが 獲物を待ち伏せ中です。枝先ではウスバキトンボが休憩していま した。9月:辺りではコオロギやカネタタキ、アオマツムシが鳴 き始めました。立派になったどんぐりに、何やら口の長い小さな 虫がいます。チョッキリです。チョッキリやシギゾウムシの仲間 は、拾ったどんぐりからよく出てくる白い幼虫の正体です。彼ら



成長し始めたどんぐり(6月)



だいぶ大きくなったどんぐり (7月)



はどんぐりがまだ若いうちにやってきて、 卵を産みつけます。卵を産みつけた後、枝 ごと器用に切り落とします。やがて卵がふ 化し、中身を食べて育った幼虫がどんぐり から出てきて土の中に潜り、蛹化してまた 成虫が出てくるようです。どんぐりの脇に できた小さな芽に気づきました、写真を見 返すと、次の年の葉や花の入った芽は7月 には既にできていたようです。10月:観察

^{葉をつけたコナラ(6月)} を始めて約7ヶ月、どんぐりは見事に実り 落ちてきました。11月には黄葉、12月には落葉が見られました。 冬芽もだいぶ成長し、たくさんのアブラムシがついています。そ

獲物を待つハラビロカマキリ(8月)



シナガバチの巣に頭をつっこみ寒さをしのぐカネタタキ、枯れ枝 の樹皮を破り出てきたキクラゲ(キノコの仲間)、枝先に産みつ けられたハラビロカマキリの卵、セミの産卵痕、新しい発見はつ きません。今コナラの木はすっかり葉を落とし、観察を始めた頃 に近い状態です。

の甘露を狙ってアリもやってくるようです。主のいなくなったア

今年も観察を続けて、 コナラの花に集まる虫 を調べようと思います。 定点観察をしたことで、 たった一本の木にもい ろんな変化があり、た くさんの生き物達がや って来ることが分かり ました。身近な自然ほ ど、面白いものはない のかも知れません。 もうすぐ春がやってき ます。定点観察を始め るいいチャンスです。

(野本康太)





どんぐりの脇にあった翌年の冬芽(9月)

むしムシ虫眼鏡

Vol. 8 腐ったくだものが好き!

伊丹市昆虫館のチョウ温室で、「カレハチョウがいる!」そんな声が聞こえてくると、こどもたちの視線の先には、枯れ葉そっくりの「コノハチョウ」がとまっています。オスはなわばりをもち、そこに侵入してきた昆虫を飛びながら追い出します。追い出した後、枝先などではねを広げ、オレンジ色や青い色を目立たせます。はねを閉じてとまる時は、なぜか頭を下にしています。花にはほとんど集まらず、樹液や腐った果物の汁などを吸います。チョウ温室では、温室内で実るパパイヤを腐らせ、お皿の上に置いています。夏場には、来館者のTシャツの汗にとまることもあります。

コノハチョウは沖永良部島、沖縄本島、石垣島、西表島に分布 しています。昆虫館では鹿児島県沖永良部島産の個体を飼育して います。現在、沖縄県では県指定天然記念物に指定され、また環 境省レッドデータブックでは準絶滅危惧種として記載されていま す。間近で見ることができるチョウ温室で、この希少なコノハチ ョウをじっくりと観察してください。(角正美雪)

<準絶滅危惧種> 現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」 へ移行する可能性のある種





はねをとじているコノハチョウ

はねを広げると鮮やかな色が目立つ

〈コノハチョウ〉

学名:Kallima inachus

分類:チョウ目タテハチョウ科

開長:45~50mm

分布:沖永良部島、沖縄本島、石垣島、西表島

亜熱帯の温室から

Vol. 8 ショウガの香り

沖縄の風景を代表するこの植物は、株別れして増え、チョウ 温室の修景植物として欠かせません。

長さが 40cm にもなる長だ円形の葉は、沖縄がふるさとのモリバッタ類の食草としても重宝しています。茎を剪定するとショウガ科特有の香りが漂い、この葉でお餅を包んで蒸したムーチーは、沖縄の伝統的なお菓子です。

年に一度、大きな花序(写真)を垂らしますが、真っ白い"月" に例えられる小苞(しょうほう)と、"桃"を連想させる黄色と 赤の唇弁は清楚で重量感があります。 流蜜量も多く、ツマベニチョウやシロオビアゲハが訪れます。 種が熟すると果皮は緑から赤に変わり、よく目立ちます。チョウ 温室内には他に、黄色の縞が入るキフゲットウと白い斜線模様が 入るフイリゲットウがあります。(後北峰之)



<ケットウ> 学名:Alpinia zerumbet

分類:ショウガ科



昆虫館スタッ

伊丹市昆虫館では沖縄の昆虫をたくさん飼育・展示しています。暖かい沖縄にすむ 安定して繁殖を続けるためには、親となる虫を補充する必要があります。そのため もおこないます(いたこんニュース2号参照)。そんなスタッフが見た、沖縄の自然

亜熱帯の琉球列島

みなさんは沖縄というと、何をイメージするでしょうか。青い空、美しい海でしょうか。沖縄民謡や料理かもしれません。沖縄が位置する琉球列島は、自然も文化も関西とは大きく違います。生き物たちも例外ではありません。亜熱帯の琉球列島では国内の他の地域に比べて南方系の種類が多く、分布の北限となっている種類がたくさんいます。そして、沖縄県の面積が日本全土の0.6%しかないにもかかわらず、生息する動植物の種類数がとても多いのが特徴です。

チョウを例にとっても、日本で記録がある289種のうち、実に88種が沖縄で記録されています。昆虫館から沖縄に行く時期で多いのが秋です。沖縄がいくら冬に昆虫が多いといえども、1年中同じ種類と量の昆虫がいるわけではありません。

秋は、チョウやバッタ類がたくさん見られる時期でもあり、台風のシーズンが終わって、いわゆる「迷チョウ」が来る時期でもあります。偶産チョウとも呼ばれ、本来くらしていない地域に、違う場所からやってきたチョウです。関西でも見つかることがあります。これは、台風などに飛ばされてやってくると考えられています。来た場所に幼虫のエサとなる植物があると、しばらくの間繁殖することもあります。そしてそのまま定着してしまうチョウもいます。沖縄では60種以上の迷チョウの記録があり、その多くは台湾など国外からやってきます。昆虫館で飼育しているチョウの中にも、迷チョウから定着したチョウがいます。カバタテハ、ツマムラサキマダラなどです。

昆虫館にいる虫たちも、現地で見るとずいぶん雰囲気が違います。 チョウ温室でみつ皿によく集まるオオゴマダラは、現地では林の やや高いところをゆったり飛ぶのがよく見られます。スジグロカ バマダラ、リュウキュウアサギマダラは西表島などでは最も目立 つチョウで、空き地に咲くシロバナセンダングサという白い花に たくさん集まっています。イリオモテモリバッタは草むらではな く林ぎわにくらし、クワズイモという植物の大きな葉の上でよく 見つかります。ナミアゲハ、ツマグロヒョウモンなど伊丹でおな じみのチョウももちろんたくさんいます。しかし、同じ種でも関 西とは色合いが違う種類もいて、その多くは沖縄の方が鮮やかな 色合いです。ジャコウアゲハやナガサキアゲハなどは、同じ種と は思えないほどです。現地でチョウを観察していると、幼虫が食 べる植物や成虫がみつを吸う蜜源植物にも新しい発見があります。 海岸での調査ではモンパノキという植物の花がマダラチョウ類に大人気で、その木の枯れ枝にも何か好みの物質が含まれているらしくスジグロカバマダラが集まっていました。モンパノキが手に入ればチョウ温室にも植栽する予定です。



カバタテハ



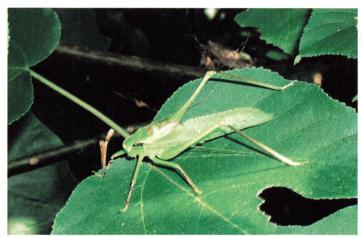
同じナガサキアゲハのメスでも、はねの模様がこんなに違います 左(伊丹産)、右(沖縄産)



モンパノキの花に集まるスジグロカバマダラとアサギマダラ

フが見た沖縄

kは冬眠しない種類が多いので、1年中展示するのにぴったりなのです。しかし Fスタッフが沖縄へ行き、必要な数の昆虫を持ち帰ります。現地調査や情報収集 こうすをレポートします。



昆虫館でも展示しているタイワンクツワムシ

沖縄は、イリオモテヤマネコ、ヤンバルクイナ、ヤンバルテナ ガコガネなど天然記念物に指定されているような貴重な生き物が 多い地域としても知られています。地元でも保護に取り組んでい て、私たちも注意を呼びかける看板をよく目にします。一方で、 開発の波も押し寄せています。たとえば東洋のガラパゴスと言わ れる西表島でも、以前に比べ道路の拡張がすすみ、観光の施設も 増えました。道路が整備されることは私たちにとって便利なこと ですが、イリオモテヤマネコなどの交通事故が増え、対策として こんどは道路の下にイリオモテヤマネコ用のトンネルが造られて います。沖縄本島では日本最大の甲虫ヤンバルテナガコガネの生 息地の減少と、密猟者による被害が後を絶たないようです。

去る平成19年1月8日、琉球大学資料館学芸員の佐々木健志 氏を講師に迎え、伊丹市昆虫館と同館友の会共催の講演会「沖縄



いきものたち」 が開催されまし た。その中で、 沖縄の生物には わかっていない ことがとても多 く、すばらしい 自然に恵まれて



いる一方で、さまざまな生き物が絶滅に瀕しており、私たちの生 活を見つめ直す必要性があることが語られました。講演会で紹介 されたデータの一部は、この本文でも引用させていただいていま す。昆虫館スタッフの沖縄調査では、個体数減少のおそれがなく、 繁殖のために最低限必要な数の昆虫しか持ち帰っていません。し かしそれらの昆虫たちさえも、今後貴重な種になっていくかもし れません。(坂本昇、野本康太)



国の特別天然記念物カンムリワシも交通事故による減少が心配されています

さいきんの

日本最大のミズスマシが卵を産みました!

ミズスマシというと水面を上手に泳ぐ、小さな甲虫というイメー ジがあります。しかし沖縄にすむオキナワオオミズスマシは、ひと 味違います!なんと体長が2 cm もあり(もちろん日本最大です!)、



オキナワオオミズスマシの成虫



ふ化直前の卵、幼虫の眼が透けて見える 生まれたばかりの1齢幼虫、体長は約3mm



一見したところ小型のゲンゴロウのようです。でも、水の上をク ルクルと旋回しながら猛スピードで泳ぐ様子は、やはりミズスマ シなのです。

昆虫館では、2006年秋の調査で坂本・野本両学芸員が沖縄から 連れて帰ってきたオキナワオオミズスマシを生態展示しています

(2007年2月現在)。そのオキナワ オオミズスマシが、水中の水草にた くさんの卵を産みました。2 mm ほ どの小さくて細長い形は、ちょっと アメンボの卵と似ています。

幼虫の姿も変わっています。顔は 7号で紹介したクロゲンゴロウの幼 虫に似ていますが、腹部の両側に、 水中でも呼吸できる気管鰓(きかん さい)が発達している点が違います。 ここまで幼虫が育ったのは、伊丹市 昆虫館の16年間の歴史の中で初め てなので、大切に成長を見守りたい と思っています。(奥山清市)



3齢幼虫、体長は約3 cm

しわだ自然資料館との交換出前講

大阪府岸和田市にある「きしわだ自然資料館(以下資料館)」は、当 館とよく交流している博物館です。昨年は、それぞれの館で得意な 講座を、交換で出前出張しあおうということになりました。

まず、12月16日に昆虫館の学芸スタッフ(野本・長島)が岸和田へ 出張しました。資料館の友の会の方々には、当館自慢の昆虫マイク ゴマダラが葉っぱを食べる音を聴いたり、アマミナナフシや



化石クリーニング体験の様子

クロカタゾウムシなどをさ わったりして楽しんでいた だきました。

12月23日は、当館に資料

館のスタッフの方々が来館 され、スライド上映による 化石のお話や、「化石クリー

ニング体験」の講座を実施

していただきました。

「化石クリーニング体験」は 大阪層群と呼ばれる20~300 万年前の地層から採取した土 より、刷毛や針を使って慎重 に化石を掘り出します。この 日はなんと、オサムシ科の一 種(コウチュウ目)とおもわれ る昆虫の前はねの化石が発掘



発掘されたオサムシ科の一種とおもわれる昆虫の 前はねの化石(写真提供:きしわだ自然資料館)

されました。資料館スタッフの渡辺専門員によると「これは今から 約200万年前の昆虫化石です。大阪層群最下部からの昆虫化石の発 掘はおそらく初めてのことで大発見です。標本は現在、大阪市立自 然史博物館と共同で詳しく調べているところです」とのことでした。 (長島聖大)

飼育室から

が移

1年中チョウを飛ばすためには、チョウの幼虫が食べる植物(食 草)の栽培が不可欠です。

昆虫館で飼育しているチョウのうち、沖縄のチョウは半数以上 におよびます。それらの食草の多くは沖縄に自生する植物です。 これらを冬でも安定して供給できるよう、栽培温室が伊丹市内の 荒牧と中野東に計2カ所ありましたが、平成18年12月より、これ らの温室を1つに統合し移転しました。チョウによって食草が違 うため、その種類は約15種650鉢もあり、トラック2台で何往復も

して運んだ大移動でし た。

今までの温室とは異 なる環境条件(気温や 湿度・光の当たり具合 など)を、しっかりと把 握しながら、栽培して います。(角正美雪)



常設展示プチ・ リニューアル!



常連の皆さんはすでにお気 づきの事だと思いますが、チョ ウ温室に、新しいガラス製の掲 示板が入りました。以前からあ ったものが古くなったことと、 その日の花やチョウの様子を 温室内で紹介できるようにす るためです。

温室に入ってすぐの池の前

と真ん中にある滝の前に小掲示板、そして出口前に大掲示板の、計 3台設置しました。向こう側が透けて見える強化ガラス製で、温室 の緑の美しさが隠れないように配慮しています。この掲示板を活 用して、皆さんにお伝えしたい花やチョウの"いま"の情報を、スタ ッフの手書きサインや写真で発信していくつもりです。

また、1階の第1展示室にある10倍の昆虫ジオラマにも、床シー ルや標本箱の追加など改良が加えられました。これからもいろん な工夫をして、皆さんに楽しんでもらおうと思ってますので、期待 していてくださいね!(坂本昇、奥山清市)

この冬、チョウ温室で「ミヤマカラスアゲハ」が飛んでいるの をご覧になりましたか。このあたりでは山地の林道や渓流沿いな どに見られます。はばたく度に青緑色に輝くはねは、何ともいえ ない輝きです。

2006年9月の中頃、宝塚で採集したミヤマカラスアゲハのメス 1匹を強制採卵しました。強制採卵とは幼虫が食べる植物(食草) の枝葉に、ネット状の袋をかけ、その中にチョウを入れて卵を産 ませる方法です。なんと101匹がふ化し、ミカン科のハマセンダ ン、キハダを食草として飼育を開始しました。ふ化から3日まで の初齢の段階で約50匹がうまく食草に食いつかず死亡しました。 ハマセンダンでの飼育がもっとも順調で約30匹が前蛹まで育ち ました。10月下旬頃から1世代目(F1)35匹が羽化し、チョウ 温室に飛ばしました。12月下旬から2世代目(F2)が54匹羽化

しました。現在、少数の幼虫がいますが、3世代目(F3)が続く がどうか飼育中です。(角正美雪)

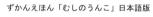


チョウ温室のミヤマカラスアゲバ



ずかんえほん「虫のうんこ」が海外進出!

伊丹市昆虫館編の「むしのう んこ」が中国語に翻訳され、台 湾で出版されることになりました。 出版の予定は2月頃とのことです。 表紙などもアレンジされるそうで、 どのような本になるのか昆虫館 としても、とても楽しみです。 (角正美雪)





パスポートのデザインが新しくなりました

有効期間中、何度でも昆虫館に入館できる「昆虫館パスポート」 を、平成19年も販売します。今年はかっこいいヘラクレスオオカブ トムシが目印で、昆虫館受付で申し込みできます。昨年度から継続 して利用される方は、申し込み時に古いパスポートをお持ち頂け

れば、手続きが簡単になります。 ぜひご利用ください。(奥山清市)

大人	中高生	3才~小学生
1500円	500円	300円



友の会会員募集中

昆虫館友の会は今年で4年目を迎えます。みんなで昆陽池の生 き物をしらべたり、自然観察ハイキングに出かけたりと、昆虫館 と自然を楽しめるイベントがいっぱいです。会員の期間は1月~ 12月の1年間、料金は下記の通りとなっています。会員になる

と昆虫館売店の昆虫標本作製・採 集グッズが1割引で買える特典も あります。かなりお得です!詳し くは昆虫館受付まで。(長島聖大)



500円

家族会員 1500円(3人までの会費)



自然観察会のようす

祝!2度目の矢島賞 受賞タイトル「昆虫マイクで聞いてみょう!虫の音」

全国昆虫施設連絡協議会の平成18年度大会で、当館の野本学芸

員が、栄誉ある矢島賞(奨励賞)を受 賞しました。矢島稔先生が寄贈され た基金を元に制定された矢島賞は、 昆虫館の発展に寄与した者に与えら れる賞です。伊丹市昆虫館としては、 平成12年度の第1回に続き2度目の 受賞となります。(奥山清市)



受賞記念の楯は受付にて展示中!

ふれあい体験「むしさんこんにちは」 17(±)

> 18(日) 昆虫クイズ「ムシオネア」

25(日) チョウ温室ガイド「お花編」

3 月

4(日) チョウ温室ガイド「チョウ編」

11(日) 昆虫折り紙アート講座

 $17(\pm)$ ふれあい体験「むしさんこんにちは」

4月

8(日) 昆虫折り紙アート講座

14(土) 春の原っぱへでかけよう!予約制

15(日) ふれあい体験「むしさんこんにちは」

DA

12(土) ヤママユ飼育講習会① 予約制

13(日) 昆虫折り紙アート講座

13(目) ミツバチ観察会① 予約制

27(日) アゲハチョウをそだてよう!予約制

bβ

上旬 ホタル観察会 予約制

3(目) ミツバチ観察会② 予約制

10(日) 昆虫折り紙アート講座

特別展

 $7/18 \sim 9/2$ くぬぎ林にいこう!(仮)

企画展 $\sim 3/12$ おきなわ~ちょうちょのふる里~

 $4/11 \sim 7/2$ ほっとパークこやいけ

プチ展示

 $\sim 3/5$ だっぴ~虫のぬけがら~ $3/7 \sim 5/7$ むしのもちかた・さわりかた

5/9~6/18 水辺のいきもの

講習会・観察会の申込方法 くわしい内容は、申し込むには、

伊丹市内に在住の方

広報伊丹をごらんください。

・伊丹市外に在住の方

電話でお問い合わせください

(講習会・観察会の実施日の 約1ヶ月~2週間前までにお問い合わせください)。

*広報伊丹は実施日の約1ヶ月前に掲載します。 電話でのお問い合わせは掲載以降に案内いたします。 ・往復ハガキに記入し、お送り下さい(締切日必着)。 *講座により申込方法が異なる場合があります。 由込多数の場合は抽躍になります。

・受講の詳細は、返信用ハガキでお知らせします。

∓664-0015 参加希望の講座名 伊丹市昆虫館 返信 往信 参加希望者全員の 何も書かないで あなたの住所 氏名 ふりがな 名前・学年(年齢) ください 住所 行 電話番号

編集スタッフより

今号は沖縄特集!沖縄に行った事が無い方も、いたこんニュースを読んで沖縄に興味を持って頂ければ嬉しいです。(奥山) 今年の冬は暖かく、雪もほとんど降っていません。春の訪れや虫たちが動き出すのも、早くなるかも知れませんね。(野本)

次回 (第9号) 発行は、2007 (平成19) 年7月ごろの予定です。

いたこんニュース 第8号 Vol.4 No.2(通巻8号) 2007(平成19)年2月発行

行 伊丹市昆虫館

〒664-0015 伊丹市昆陽池3-1 昆陽池公園内 TEL: 072-785-3582 FAX: 072-785-2306 URL: http://www.itakon.com/

E-mail:ge7n-skmt@asahi-net.or.jp 集 奥山清市 野本康太

デザイン原案 pico*pictuers 刷 商工印刷株式会社